



陽気だより

昭和35年5月号から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で66年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

求道実録

無宗教時代

思想なき宗教は「昼間の行灯」である。
危機に立つ現代宗教批判――。

松井忠義

(昭和三十五年当時、
明城大教会長)

東洋と西洋の考え方

西洋人と東洋人の考え方は違うようである。

西洋人のは、まずプリシプル(原理原則※編集部註)をたてる。主義主張を先にたてて、生活をそれに合致せしめる。

たとえば聖人の言葉をとってくると、それをそのまま信ずる。妥協をしない。いわば権威主義とでもいうか、少しもゆとりがない。善と悪、罪と罰、というような思想があつて、少しの呵責かじくもない。

「初めに神あり」といった具合に、人間の一切は最初に神があつて、それから人間ができたのである。人間と神とは

完全に対立している。

その点、東洋人の考え方は、よほど違つていふように思う。よくいえば芸術的とでもいうのか、気分本位とでもいうのか、「悟り」を中心にして、個人本位の考え方である。善悪というようなものも、あまりたてない。

西洋人のはすべて社会主義的であり、東洋人のは個人主義的である。西洋の人からいへば、神様は唯一絶対のものであつて、それに似たものは絶対に許さない。

ところが東洋人のは、人間が神になるというようなことが、そう不思議なことと思つてはいない。同じ家の中で二

つないし三つの神様が同居しておつても、さほど妙な気もしない。家族主義というのか、慈悲というようなことが中心になつていふ。

こういうことから西洋人は、夫と妻が中心であつて、親というようなものがあり、大切にされていふ。東洋のはむしろ反対で、夫婦のなかりよりも、ある場合においては親の方が大切である。

どちらがよいのか、わからない。たださういふような思惟しゆいの形式が違うだけで、いづれにも長所があり、短所があるように思う。

西洋の倫理主義の徹底したところ、思想家や学者の生命を失つていふのが数知れない。犠牲ぎげいというように、理の当然として少しも疑問にしない。

その点、東洋の人のほきわめて温和であり、主義主張を異ちがにしておつても、相手あひまを窮きつ地に陥おとれるということことは、ままずない。

こういうことは絵画を見てもよくわかる。西洋のは一般的に写実的であるが、日本のものは神秘的ぼくというのか、茫ぼく漠ぼくとしていふ。ブドウの絵を

描いても、日本人の描くものは、ブドウの房に粒がいくつついていふというようなことは問題でない。西洋人からいふと、日本のブドウは何個くらいついていふのが普通だらうと思ふかもしれないが、日本のは白紙の上に墨がぬつてある。墨だけが問題でなくして、白紙も絵のうちの一つなのである。

思想なき宗教

かように東洋人と西洋人とはいろいろ考え方に相違がある。それぞれによいところがある。

ところが近ごろの日本人の考え方に西洋の考え方が入り、個人主義でなくして自分本位、自己主義が横溢おういしていふように思われる。

「人に利用されてはたまらん、利用してやろう」というような考え方になり、だんだん孤立主義に陥つて、日本人の長所まで失いつつあるように思われる。

何といつても人間関係というものは無視することのできないものである。自分の、個人の問題と同時に家庭の問題、第三者の問題の調整を加えて

好評発売中

猫に変わる 犬から 子どもは

古市 俊郎

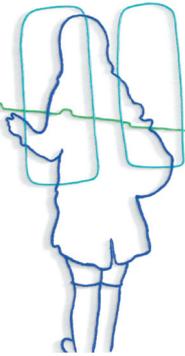
(心理カウンセラー・福之泉分教会長)

B6判 208頁・定価=1,000円+税

出版 養徳社 ☎0120-920-398

©いしかわかずはる、Courtesy of YUKARI ART

- 子育てに悩む人
- 子育て相談にのる人
- 若者の育成の参考に
- 人間関係改善のヒントに



するから、宗教に入っていない。いわば無宗教の時代に陥りつつあるように考えられる。いわゆる新興宗教などは、人間の病気とか災難とかを中心にしてはびこっているようであるけれども、こういうふうなのは、思想なき宗教というよりほかない。現代の混乱時代においては、そういうものがはやっていなければならない。いわゆる「昼間の行灯」で、やがて明るみに出た場合は、すぐに消えるべき運命にあるといえよう。

その点、日本の宗教は今、非常な危機に臨んでいる。日本的なよさを失うと同時に、西洋的なよさを失っている。宗派があっても真の宗教がない。いわば無宗教の時代に陥りつつあるように考えられる。いわゆる新興宗教などは、人間の病気とか災難とかを中心にしてはびこっているようであるけれども、こういうふうなのは、思想なき宗教というよりほかない。現代の混乱時代においては、そういうものがはやっていなければならない。いわゆる「昼間の行灯」で、やがて明るみに出た場合は、すぐに消えるべき運命にあるといえよう。

「思想の建設」——宗教を信ずる人が考えねばならぬ問題ではなからうか。

養徳社営業予定

赤字は休業日

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

おつとめ (1日~31日) 朝7:00
夕5:00

1月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

おつとめ
(1日~15日) 朝7:00
夕5:00
(16日~30日) 朝7:00
夕5:15

元旦祭 1月1日(午前5:00)
教祖130年祭 1月26日(午前10:30)



月刊『陽気』 定期購読受付中

お知らせ

お店まで買いに行くのが大変。忙しくて購入するのを忘れた。定期購読はそんな手間を省きます。
毎月20日前後にご自宅宛に発送いたします。
(例: 12月号は11月20日)

定期購読料金 **1年分...3,420円** (送料込)
半年分...1,710円 (送料込)

陽気

12月号

特集
たすけの旬・たすかる旬
連載
◎助産師ようぼく物語 終
◎若き布教者の集い(講演要旨)

購読に関する問合せ先

☎0120-920-398 養徳社業務部窓口

Facebook で最新情報をチェック!

<https://www.facebook.com/yotokusha>

この「陽気だより」を支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用ください。お願い申し上げます。

<書籍・陽気のご購入方法について>前払いをお願いしております。お近くのゆうちょ銀行に備え付けの振込用紙をお使い頂き、[住所、氏名、電話番号、書名(陽気希望月号)、冊数]を明記の上(振替口座番号00990-3-17694番 加入者名(株)養徳社)へご送金ください。手数料はお客様負担となります。ご入金を確認後、速やかに商品を発送させていただきます。ご不明な点は養徳社までお問い合わせ下さい。フリーダイヤル0120-920-398 養徳社業務部